

もくじ

| | | | |
|----------------------|-------|-----------------|-----|
| もくじ・総合防災ハザードマップの活用方法 | 1 | 危険度マップ | 20 |
| 5段階の警戒レベル・自主防災組織 | 2 | 雪害対策 | 21 |
| 避難行動判定フロー | 3 | 火災対策 | 22 |
| マイ・タイムライン | 4 | 風水害対策 | 23 |
| 災害時の情報伝達 | 5 | 土砂災害対策 | 24 |
| 総合防災ハザードマップの見方 | 6 | 竜巻・雷対策 | 25 |
| 避難所一覧 | 7 | AEDの使い方 | 26 |
| 全体索引図 | 8 | 感染症対策 | 27 |
| 詳細図1～3 | 9～14 | 自宅にとどまった場合の備え | 28 |
| ため池浸水ハザードマップ | 15・16 | わが家の安全対策 | 29 |
| 地震対策 | 17・18 | 非常時持出品・備蓄品 | 30 |
| 揺れやすさマップ | 19 | わが家の「防災・緊急情報」メモ | 裏表紙 |

※使用ピクトグラム…「JIS Z8210[洪水/内水氾濫][土石流][崖崩れ・地滑り][大規模な火災][鉄道/鉄道駅]

「本書の特徴」

本書は、いつ起こるかもしれない様々な災害に対し、事前に備えることを目的として作成しました。

予測不可能な災害の被害を最小限にとどめるため、常日頃から内容に目を通し理解を深めていきましょう。また、本書の特徴として、災害時に持ち運びができるように冊子型としています。ヒモなどでつるし身近に置き、緊急時に持ち出してご活用ください。

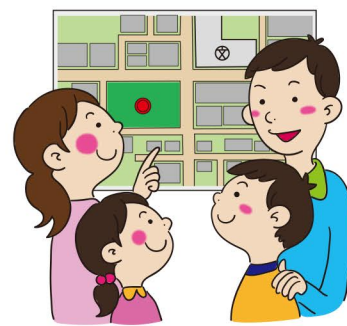
総合防災ハザードマップの活用方法について

①住んでいる場所と予想される浸水の深さを地図上で確認しましょう (P9～14 参照)

この総合防災ハザードマップには、予想される浸水の範囲と深さがランク別に色分けされています。自分の住んでいる場所は浸水の危険があるのか、予想される浸水の深さはどれくらいになるのかを確認しましょう。ただし、予想される浸水は、このとおりにはならないことがあります。

②避難場所を確認しましょう (P9～14 参照)

この総合防災ハザードマップ7ページの避難所一覧で、自分の住んでいる地区で指定されている避難所がどこかを確認しましょう。そして、地図上でその避難所がどこにあるのか、場所の確認をしましょう。



③避難経路を考えてみましょう (P9～14 参照)

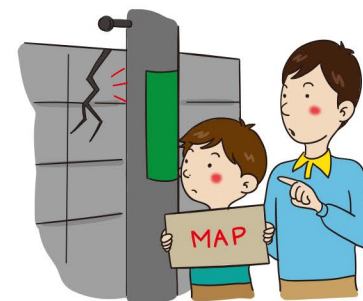
この総合防災ハザードマップで自分が住んでいる場所から避難所まで、どの道を通れば良いか、避難経路を地図上で確認しましょう。

地図上での確認が済んだら、実際に避難所まで歩いてみましょう。安全で歩きやすい道を選び、避難所までの経路を確認して、所要時間も計ってみましょう。実際に避難するときは、夜間・大雨・大人数での移動が考えられるため、所要時間は平常時の倍以上かかる可能性があります。

④家族や周辺住民と情報を共有しましょう (P9～14 参照)

この総合防災ハザードマップは家族と一緒に確認しましょう。地震、台風や大雨により、避難が必要になったときは、周辺住民、親戚、知り合いなどにこれから避難することと避難先を伝え、どこの施設に避難しているのか分かるようにしておきましょう。

安否確認には、災害用伝言ダイヤル(171)の利用も有効です。



5段階の警戒レベル

| 警戒レベル | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|-----------|--------------------|--|--|---|--|
| 住民が取るべき行動 | 災害への心構えを高めましょう | 避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。 | 避難に時間を要する人(ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等)とその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。 | 速やかに危険な場所から避難先へ避難しましょう。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。 | 既に災害が発生(または切迫)★している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。 |
| 避難の情報 | 早期注意情報(気象庁が発表) | 洪水注意報(気象庁が発表) | 避難準備・高齢者等避難開始(高齢者等避難)★ | 避難勧告 避難指示(緊急) | 災害発生情報(緊急安全確保)★ |

★: 今後災害対策基本法の改正が見込まれています。

危険度

高

※必ずこの順番で発令されるとは限らないので注意してください。 ※これらの情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は避難を始めてください。

自主防災組織

防災はふだんの絆にもなる。日常のコミュニティ活動が大切です。

1 積極的に挨拶しましょう



2 地元のイベントなどで地域の人たちと交流しましょう



3 高齢のかたや障害のあるかたへの支援に協力しましょう



4 防災訓練で知識や技を学びましょう



災害が発生したとき、被害を最小限に食い止めるためには、自分の家が無事なだけではいけません。住んでいる地域全体が守られて、はじめて自分や家族が安全になれるのです。美里町では各行政区に自主防災組織が結成されています。防災訓練や地元のイベントに参加するなど安全・安心のまちをつくるために日ごろから地域のコミュニティを大切にしましょう。